

遠隔監視体制(イメージ写真)



使用車両(イメージ写真)



実施体制(案)



各種センサーやカメラを備えた新型EVバスを導入

※乗車定員(客席15席) 立ち乗りはできません
 ※自動運転最高速度 35km/h

将来構想図

町の各種計画と紐づけながら駅を中心とした、自動運転バスの周回ルートを定着させコンパクトシティの実現を目指します。



LINEによる予約や、運行状況の確認が可能
 (直前まで予約が可能)



住民説明会を開催します

とき 12月23日(土) 午後2時~4時
 ところ 町民会館 会議室B

- 乗車料金は無料です!
- どなたでも無料で利用できます。
- 完全自動ではありません
- オペレーターが搭乗した自動運転となります。緊急時には手動運転に切り替え走行します。
- 自動運転中は低速走行します
- ゆっくり走行する自動運転バスを温かく見守っていただきますようお願いいたします。
- 無理な追い越しや路上駐車をしないようご協力をお願いします。
- 実証期間中は座り席のみ
- 立ち乗りはできません。
- LINE連携機能
- ※運行情報の配信や乗車予約が可能です!

横芝光町で自動運転バスを活用した 実証調査走行を開始します！

企画空港課デジタル推進室 ☎(84)1279

先端技術の自動運転バス導入走行により
「すべての世代が暮らしやすいと思える魅力的なまち」へ
～デジタル田園都市国家戦略に基づきスマートシティ実現に取り組む～

自動運転モビリティ事業の実用化
「自動運転レベル4」実装を目指す

- 自動運転バスの社会実装へ向けた体制構築
- 新たなデジタル事業の模索
 - ・マイナンバーカードの活用
 - ・生体認証システムの導入 等



- 課題
- 高齢化の進行
 - 若年世代の流出
 - ドライバー不足（2024年問題）

2023 年度



自動運転技術を活用した
新しい移動サービスの実現を見据えた
実証実験・調査事業

様々な移動需要に対応できる持続可能な移動サービスの推進

2024年3月以降 実証運行の継続

- 運行可能な走行ルートの拡大
- 自動運転システムの機能向上
- 利便性と利用率の向上（新たな活用企画 等）

「自動運転レベル2」による走行

- 自動運転走行時も車内オペレーターが常時監視
- 遠隔運行監視センターでの常時監視
- 緊急事態発生時の体制整備
- 地域住民への利便性やサービス向上の調査など

走行ルート



若年世代流出と高齢化が進んでいる一方で、2029年の第3滑走路供用開始予定を含む成田国際空港の機能強化や圏央道・銚子連絡道の整備は人・モノの動きに大きく影響を与える見込みです。

町では空港関係就業者の若年世代の定住先には選ばれるために、新たな都市構造への転換を目指して居住地形戦略・産業振興戦略・交通網形成戦略を進めています。

本事業は各種計画戦略の促進と高齢化による移動需要の変化、ドライバー不足などの2024年問題に対応する公共交通課題解決に資する事業として、国の補助金を活用して自動運転バス1台を導入し、公道での実証走行を開始します。

○調査請負受注者 BOLDLY(ボー
ドリー)株式会社